



月刊喜界島ジオパーク令和6年11月号

「公民館講座 地層観察と化石発掘体験」

喜界島ジオパーク推進協議会 事務局員 土屋純子

10月5日(土)に、「喜界島のジオ(大地)を知る」体験教室の第4回・第5回講座を開催しました。

午前中は、中央公民館でこれまで学んだ内容を振り返りながら、喜界島の成り立ちやサンゴ礁、そして喜界島の「中身」と「外身」について詳しく学びました。

喜界島は、サンゴだけで出来ているのではありません。喜界島の基盤には、泥や砂が積み重なって形成された島尻層群しまじりそうぐんが存在しています(分かりやすく言えば「中身」)。この島尻層群は、喜界島がまだ海の底にあった時代に、中国大陸から運ばれた泥や砂が積もってきたものです。喜界島はやがて泥の海からサンゴ礁の海へと移行していきます。現在から約85、45万年前になるとサンゴの化



石などから成る琉球層群りゅうきゅうそうぐんが形成され積み重なりました(島尻層群の基盤を化石でコーティングした「外身」のように見えます)。また、喜界島の南西にあるウガミ礁は、かつて島だった時代があったことも学びました。この授業を通じて、喜界島の自然環境や

地質に関する知識をより一層深めることができ、午後のフィールド観察に対する期待がますますふくらみます。

午後は実際に島の地層を観察するため、露頭(地層が露出した場所)へ向かいました。行ったのは、6万年前の上の地層と、40万年前の下の地層

がきれいに分かれていることが観察できる場所です。参加者で地層をじっくり観察し、許可をもらって露頭を「ホリホリ」しながら発掘を行いました。この場所はサンゴ礁を構成する化石が埋まっています。サンゴ、コケムシに貝などが出てきました。この場所は喜界島がサンゴの海だった頃がわかる場所です。みんなで「何が出てくる



駒越先生から露頭の説明中

えない部分に触れることができませんでした。これをきっかけに、喜界島に対する理解がさらに深まったのではないのでしょうか。今後も、喜界島のジオに関する学びを一緒に深めていきます!

手に持っているのは左キクメイシの仲間と右ヤスリミドリイシ(ミドリイシの仲間) ←

かな?」とワクワクしながら取り組んでいました。そして拡大鏡を使って、石やサンゴの化石をじっくり観察し、さまざまな発見がありました。受講者の多くは喜界島をじっくりと見るという貴重な体験は初めてで、興味津々でした。今回の講座では、実際に喜界島の地層を掘って観察し、喜界島の大地の普段あまり見

